

吉岡荒太・弥生（よしおかあらた・やよい）（1/2）

～東京女子医大の創立者～

吉岡荒太は明治元年（1868年）、入野村（現在の肥前町）高串に吉岡玄雄（よしおかはるお）の長男として生まれました。吉岡家は代々医者をしており、村人からも信頼されていました。

荒太は、子どものころから非常に優秀で、田野小学校を卒業し、前原中学・福岡中学で学びました。父は、荒太に後を継いで地元のためにつくしてもらいたいという願いがありました。明治19年（1886年）、父の反対を押し切って近代医学の勉強のため上京しました。そして第一高等学校に入学しました。郷里からの学資も途絶えがちのため、在学中から私塾のドイツ語教師をしながら医学の勉強をしましたが、3年のときチフスにかかり、更に脚気にもかかりました。こうした度重なる病気のために学校を退学しました。その後独学で医師開業試験を目指しつつ、明治24年（1891年）に「東京至誠学院」を開いてドイツ語を教え、明治28年（1895年）には『独逸語講義』という本を出版しました。その後荒太の前に現れたのは鷺山弥生でした。

弥生は明治4年（1871年）静岡県の漢方医の長女として生まれました。正義感が強く活発な弥生は、女医として身を立てるため、明治22年（1889年）に上京し、済生学舎に入学しました。そして23歳の時に医師免許状を受けました。その後、帰郷し開業しましたが、さらにドイツ留学を志して再び上京し、東京至誠学院に通い、荒太にドイツ語を学びました。

やがて、荒太の弟松造の仲立ちにより結婚することになりました。でも生活は苦しく、明治28年（1895年）弥生の下宿先で荒太と弥生、それに荒太の弟2人の4人で「そば」をすすり合って、ささやかな結婚式を挙げました。荒太28歳、弥生25歳でした。

～2/2へつづく～

分野 人物

地域 肥前

◎地図・写真・統計資料など



吉岡 荒太
(1868～1924)



吉岡 弥生
(1871～1959)

（『郷土につくした人々』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

吉岡荒太・弥生（よしかあたらた・やよい）（2/2）

～東京女子医大の創立者～

～1/2からつづく～

弥生は早速東京至誠医院を開業しましたが、荒太の至誠学院は経営困難で結婚後数年はどん底の生活続きでした。でも2人は希望を失わず、互いに励まし合い、努力を重ねました。

明治29年（1896年）、2人は至誠学院の業務を拡張し、英語・数学・漢学の三科を増設して1種の高等学校の形式をとりました。そして、寄宿舎を設けて数10人を収容しました。済生学舎が女子学生を受け入れなくなったのをきっかけとして、明治33年（1900年）、かねてから女性の医師を養成するための学校を作りたいと考えていた弥生の希望により、東京至誠学院の一室に「東京女医学校」を設立しました。これが今日の「東京女子医科大学」であり、日本での女子医学教育の最初でした。その後二人の血のにじむような苦勞の末、東京女医学校は、幾百幾千の女医を世に送り出し日本の女子高等教育の基盤をつくり、女性の社会的地位向上におおいに貢献しました。

学生から慕われ、弥生にとって良き理解者であった荒太は、糖尿病により永眠しました。享年55歳。東京で盛大な葬儀が行われました。郷里高串でもその分骨を迎え、漁民は1日漁を休み、郷土の偉人の霊を追悼しました。会葬者3千名で、高串空前の葬儀といわれました。

その後弥生は、義弟の吉岡正明らの協力により、医学校校長として、また至誠会病院長として、今日の大学・病院を守り育てました。そして、昭和34年（1959年）、89歳の生涯を閉じました。

荒太は物静かで温厚、意志の強い人で、特に郷里を思う心が厚く、度々母校へ教具類を寄贈し、村人が上京する時はだれでもあたたかく迎えたといえます。

墓は故人の希望により分骨して郷里高串と、教え子たちによって贈られた東京都立多摩霊園内にあり、2人仲良く永遠の眠りについていきます。

弟松造は高串に帰り、吉岡病院を継ぎ、松造は田野小学校の校医もしました。

吉岡一族の業績は、いまでも地域の人々の誇りとなっています。

分野 人物

地域 肥前

◎地図・写真・統計資料など



現在の肥前町高串地区



吉岡 荒太、弥生の墓



東京女子医科大学病院1号館
竣工 昭和5年（1930）12月

（『郷土につくした人々』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html